

令和8年 第4回総務経済常任委員会会議録

令和8年3月4日 議員控室

○事件

(1) 協議事項

役場新庁舎等建設事業における資料要求した資料の提出説明について

○出席委員（8名）

委員長	牧 野 仁 君	副委員長	安 藤 辰 行 君
	黒 島 竹 満 君		横 田 喜世志 君
	三 澤 公 雄 君		赤 井 睦 美 君
	水 野 博 美 君	副議長	宮 本 雅 晴 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（6名）

	関 口 正 博 君		小 西 雄 一 君
	斎 藤 實 君		倉 地 清 子 君
議長	大久保 建 一 君		寺 田 広 樹 君

○出席説明員（7名）

副町長	竹 内 友 身 君	新庁舎建設推進室長	川 崎 芳 則 君
新庁舎建設推進室次長	吉 田 正 樹 君	新庁舎建設推進室主幹	池 田 裕 史 君
建築係長	安 藤 巧 君	建築係主任	中 野 成 紀 君
管理係長	松 田 力 君		

○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	事務局次長	藤 原 悟 史 君
事務局係長	千 代 貴 大 君		

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（牧野 仁君） それでは揃いましたので、始めたいと思います。

定足数出席を認めます。

よって、ただいまから第4回総務経済常任委員会を開催いたします。

黒島委員および安藤委員につきましては、遅刻する旨のちょっと上でございましたので、ご報告いたします。

本日の協議事項に入る前に、前回2月20日の開催と総務常任委員会におきまして、自由討議の中で、三澤委員から大久保委員に対して侮辱する発言がありましたことから、三澤委員よりその部分の発言の撤回及び謝罪について申出がありましたので、ここで発言を許します。三澤委員お願いします。

○委員（三澤公雄君） 会議内で不穏当な発言があったことを陳謝し、削除をしたいと思えます。大変ご迷惑をいたしました。

○委員長（牧野 仁君） 私も委員長としてその場に注意、指導、訂正する対応しなかったこともお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

それでは協議事項に入りますので、説明員を入出させてください。

【新庁舎建設推進室職員入室】

◎ 協議事項

○委員長（牧野 仁君） 直ちに協議事項に入ります。

はじめに、本日の会議については、前回の会議の結果により資料要求した、役場新庁舎等の建設事業における資料が昨日町側より提出されましたので、急遽その資料内容について、町側に説明を求めたところでございます。

なお、前回からの継続ですので、今後町が発注する八雲町役場庁舎等の建設事業の委託業務や工事に対してその影響が懸念されることから、公正な手続きを守るため、秘密会としておりますので、ご承知のほどよろしく願いいたします。

それでは、町はより説明をお願いいたします。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 委員長、新庁舎建設推進室長。

○委員長（牧野 仁君） 新庁舎建設推進室室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） それでは、よろしく願いいたします。

2月24日付で、株式会社二本柳慶一建築研究所と八雲町との新庁舎整備実施設計業務委託に関する全ての資料につきまして提出を求められましたので、昨日付で議会事務局のほうへ提出をさせていただきました。

本日提出いたしました資料により、担当から説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○建築係長（安藤巧君） 委員長、建築係長。

○委員長（牧野 仁君） 建築係長。

○建築係長（安藤巧君） 提出しました資料について、1枚目のメールの時系列ということ、上のほうから順番に説明したいと思います。

まず、10月20日です。鉄骨の見積り依頼を町のほうから設計事務所に依頼をかけていたところ、鉄骨の見積りを札幌業者のほうから提出がありました。これが添付Aの資料になります。

まず、入札の中止を受けて、鉄骨の高騰が一番の要因じゃないかっていうことから、町から設計事務所のほうに道内の鉄骨の見積りを徴収できないかということで依頼をかけておりました。その見積もりがAの資料で、14億3千万という金額に内訳がついております。

もう一つ、Aの資料としまして、町の1回目の金額は伏せてございますけども、それに対して、札幌業者は右側の欄ですけども、鉄骨の見積りの比較をつけております。

一番最後のほうでいきますと合計が一番下段なんですけども、6億5千なにがしに対しまして、札幌業者の結局見積もりは14億円なにがしという比較をしたのがAの資料になります。

今、この金額を色塗りしてるものに関しては、町が発注した入札金額でありますので、今回の資料につきましては色塗りをさせていただいております。

また1枚目時系列のほうでいきますと、その後10月23日に町のほうから二本柳社長の方へ仮に庇を中止した場合の減額費用、またそれに伴う設計の見直しの費用と、今後、メンテナンスの費用についてちょっと資料を作成して欲しいということで町から依頼をしました。

その後、10月25日、設計事務所の川本氏から庇を取りやめた場合の概算金額、設計見直しの費用について、単に大屋根を中止してもすぐ金額はなかなか、少し時間をくださいということで、そして、庇、大屋根を中止した場合、そこの部分の意匠の検討も必要になります、また、そこの部分の工事費の追加も必要になるということで少し時間をください、ということで、10月30日、川本氏のほうから庇の中止の減額案の費用、全て中止した場合と、庇を50%程度残した場合。また、庇を中止した場合のイメージ図、またメンテナンス費用について提出がありました。

この資料につきましては、添付Bの資料になります。添付Bの資料、上のほうからいきますと、一つ、庇を全て中止した場合の減額の費用、庇を半分程度残した場合、またその下、設計の修正にかかる費用。その下、手数料関係、また変更に伴う申請手数料関係。一番下が修正にかかる期間、がこの1枚目となります。

その次に行きますと、外観のイメージパースがございますが、1枚目は当初の現設計のままのイメージ図でございます。

その次が庇を中止した場合の、ただ単に止めた場合のイメージ図になります。そして次がA4の横書きなんですけども、庇があった場合と、庇を止めた場合のメンテナンスの費用に係る比較表になります。

また、1枚目の紙に戻らせてもらいます。

10月31日に設計事務所のほうから、鉄骨の差額に関する工事費の想定資料ということ、資料C、A4の横書きなんですけども、設計事務所のほうから提出がまして、今現

在うちで設計していた発注かけた工事金額に対して、鉄骨の差額部分、また経費の考え方の違う部分を含めた想定される工事費の差額というものを提出してきたものになります。

また1枚目に戻りますけども、今後再入札へかけて町のほうも作業するにあたりまして、10月31日に私のほうから設計事務所のほうへ再入札に向けて現在の予算残額を伝えるため、添付Dの資料をメールで送っています。

Dの資料につきましては、既にもう仮契約中でありました電気機械設備、それに対して全体予算から除いた建築主体に係る現行予算の執行残といえますか、残額部分を示す資料になります。

また1枚目戻ります。

そして11月4日、再入札へかけて設計事務所のほうから鉄骨の見積り。青森、仙台、函館、再入札を受けて3社見積もりを依頼し比較した中で、青森が最低価格となったためこの価格を採用し、再入札にかけようという準備を進めておりました。

11月6日、青森の価格を採用し、再入札を受ける準備として建築主体の設計内訳書。

11月7日鉄骨部分に関する見積り。これは鉄骨工事以外の部分、鉄骨工事の中には入るんですけども、鉄骨業者の見積り以外に必要となる部分の見積りを依頼して、資料のやり取りをさせてもらっておりました。

12月4日、再入札に向けて発注時期がずれ込むことによって、当初予定していた時期より、コンクリートの打設がちょっと冬場にかかるだろうという想定から採暖養生の部分についても、設計事務所と計上するようにやり取りをしました。

12月6日、仮入札していました電気機械設備についても、仮に入札が延びたことによって、現行単価によってどれくらい上がってるのかっていうことを把握するために、電気機械設備の部分の単価入れ替えなどを依頼をにかけていたものの資料のやり取りでした。

12月6日、同じく再入札に向けてコンクリート養生の説明を受けたメールがありました。

1月16日、減額案について設計事務所のほうから資料の提出がありました。これが資料Eになります。資料Eの説明につきましては、現設計から資料EのA3の現設計の提案書があるんですけども、こちらになります。それぞれの金額は、色塗りをさせていただいてますけども、2枚目の中段から下段にかけて、税込7億程度の減額案の提出がありました。

その中で、いろいろなたくさんの項目があるんですけども1枚目の一番上で、番号でいきますと1番ですね。1階の床600角磁器質タイル、これを当初で見たものを提案としてはコンクリート金ゴテの防塵塗装でみる、など。

2枚目なんですけれども、41番ですね、直貼りフローリングを設計で見たものを、同じくコンクリート金ゴテで防塵装備など、あとすいません、ちょっと上に行きますけれども、34番カーポート。当初カーポートも必要として適用としてたものの中止など、提案としては、いろいろ受けたんですけども、仕様としてグレードを下げて全て採用するかということとはなかなかこの状態で判断がつかなかったところですから、金額としては7億相当の減額案として提出はありましたけども、すべて検討できるかといったらなかなか判断が難しいものであると提案を受けたときは判断しておりました。

そして、1枚目に戻りまして一番最後下から2番目、1月17日。今後のルート分けについて、資料のFになります。これについては、先ほどの減額案の次の日に提出があった資料

なんですけども、左側でいくと2回目の町が発注する金額、これが中止というか入札が不調になりました。

そうなったときに下段に42億なにがしとありますけども、これは東北の、とういうか町で採用した鉄骨金額でなく、道内の鉄骨を採用した場合の金額として42億なにがしというものの金額であります。右側に行きまして、マイナス7億っていうのが、このA3の資料になります。

そして、減額の部分は7億減額した場合に35億。左側がそれでも1億6千万、現行予算からは足りません。右側については、再度リセットして再度設計を行う、というパターンの説明資料になります。

1枚目の一番下なんですけども、添付なしということで薄く色付けさせていただいてることにしまして、今回の提出資料としてつけておりませんが、理由としましては、町が2回目に行いました入札に係る部分の設計金額に関することとありますので、今回は添付を、提出をしております。

以上、簡単ですけども提出した資料についての説明を終わります。

○委員長（牧野 仁君） 説明が終わりましたが、ただいまの説明に対しての確認したいことがあれば発言をお願いします。ありませんか。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 全くわからないので、すいません。

この外観図の庇を取ったときに、これですよって示されてこういうふうにしたら7億下がるということで、中のフローリングをやめて、直貼りの何とかにしたりなんかして、外観を取ることで7億下がるっていう説明だったのでしょうか。

この間、二本柳さんがいらしたときに、こういう提案をしましたって言ったときにね、これで下がる部分もあるけれども、ここをただ取っちゃったら恰好悪いからそこをちゃんと直さなきゃない。その増額は出てなかったような気がするんですね。

これで7億下がるよってということで終わったのか、それともこの形にしても直すんだったら、あとこれぐらいアップしますよっていうのがあったのか、そこだけ教えてください。

○建築係長（安藤巧君） 委員長、建築係長。

○委員長（牧野 仁君） 建築係長。

○建築係長（安藤巧君） 今の赤井さんの質問なんですけども、パースでいきますとそうです。庇やリブを取った形状です。添付Bの資料になるんですけども、Bの資料の内訳ですね。A3の資料の2枚目になるんですけども、37番庇の中止や38番車寄せの庇など中止してることが減額になっております。7億の中で。

ただし、今お話ありましたとおり、それ以外の部分で今後の外観の修正する部分、エントランス、町民の方や来庁者の方が入口に雨がつかないように再度庇を考えてあげるとか、外観のサッシだとかそういったものの考慮した部分の工事費については減額の中には含まれてないので、さらにかかるという判断をしております。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

- 委員（赤井睦美君） さらにかかる金額は提示されてないんですよね。
- 建築係長（安藤巧君） はい。
- 委員（赤井睦美君） わかりました。
- 委員長（牧野 仁君） あと、他にありませんか。
- 委員（三澤公雄君） はい。
- 委員長（牧野 仁君） 三澤委員。
- 委員（三澤公雄君） 明日本番だから喋りたくなかった。1月13日にゼロベースで見直すって連絡を受けて、そして1月16日に繋がったってというような説明を僕ら2月20日に聞いた、そういう議事録だよ。会議録。

1月13日のメールがないんだけど、これは電話だから。

- 新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） 委員長、新庁舎建設推進室次長。
- 委員長（牧野 仁君） 次長。
- 新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） その点に関しては、元々議会及び町民説明会のために庇だけを取った絵というのを町長が示したいということで、二本柳さんのほうにその絵を出していいかっていう許可を取るために電話をしたんですよね。

それについては、保留させてほしいということで二本柳さんのほうから回答がありまして、その電話の中で町がそういう説明をするのであれば、業者として何かしら提案をさせて欲しいという電話のやり取りにはなるんですけども、そういった話がありました。

具体的な中身はないんですけども、それが終わって、16日の2日ぐらい前に具体的な提案を町長のほうにさせて欲しいというようなことでの電話があったところです。

なので、メールとかでもなかったものですから、この一覧には出てこないということでご了承いただければと思います。

- 委員長（牧野 仁君） よろしいですか。
- 委員（三澤公雄君） はい。
- 委員長（牧野 仁君） あと他に。
- 委員（赤井睦美君） ごめん、何回も。
- 委員長（牧野 仁君） 赤井委員。
- 委員（赤井睦美君） 昨日 Google で違うことを調べようと思ったら、女性週刊誌のニュースで萬谷町長の顔がビヨンって出てて、お、これは何だと思って見たら、隈研吾さんが、相談してくれれば安い金額で設計し直してあげたのに相談もないから、いきなり白紙撤回されて不思議に思ってるって、そういうことを書かれたんですね。

でも、これを見ると、ちゃんと下げて計算して欲しいとかってあるから、あれは言った、言わないとか、どっちが正しいとか正しくないとかじゃなくて、町としては、やっぱりより安くできるように相談はしてたってということで受けとめてよろしいんですよね。

- 副町長（竹内友身君） 委員長、副町長。
- 委員長（牧野 仁君） 副町長。
- 副町長（竹内友身君） 1回目の入札が不調に終わったということで、その後2回目に向けて二本柳さんといろいろやり取りさせていただいて、例えば鉄骨も道外から調達すればいけるんじゃないとか、そういう相談はさせていただいておりまして、2回目の入札でも

やっぱり不調だということで、その後は、もうこのレベルで変更で対応できるものではないという判断はやっぱり町側としてはゼロベースという判断をしたんですけども。

ただ、今吉田のほうから説明しました、この減額提案に関して、全員協議会と町民説明会等を開催する前にはいただいているんですけども、それを町民の方に減額だけお示しするってことはなかなか適切じゃないなど、増額の部分がわからないもんですからそこをあえて出すと、やはり混乱を招くということで町側としてやっぱり3案でいこうということでやりました。

町としてその3案で議会にも町民説明会でも提案させていただきますということは、二本柳さんのほうにはご説明させていただいております。

ただ最終的に、二本柳さんのほうにもう1回設計し直しで町としては考えますということをお願いしたのは、2月5日全協終わった後に回答させていただいております。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 週刊誌だから当然面白おかしく書くんですけど、あれだけを読んだら、なんか八雲町っていうのはせつかく頼んでおきながら何の相談もなしに止めちゃったのかってなるんだけど、その後、すごい偉いっていうか、ちゃんと町民の声が載ってて、ほとんどの町民が良かったと、隈さんじゃなくていいんだと。こんな田舎にそんな有名な建築家の建物はいらなくてかそんな意見がいっぱい書いていて、なんか町だけが悪いんじゃないかと、八雲町民全員がそんなふうに思ってますよ、みたいなそんな書き方だったんですね。

だから、そういうふうにかかれると、今度は私達も説明しなきゃいけないから、そうすると町は週刊誌の最初に書かれたかのように、全く頼んだのに無視して、さっさとゼロにしちゃったっていうふうには受け止められちゃうんですけども、ちゃんとそうではなくきちんと話し合っただけの結果になったんですよっていうふうな説明で大丈夫ですよ。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 委員長、室長。

○委員長（牧野 仁君） 室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 先ほど町長からもご説明したとおり、この7億円の削減の部分は1月16日金曜日に提案を受けまして、翌週のすぐ月曜日に全員協議会並びに水曜日、金曜日と町民説明会がございまして、その中で、この7億円プラスになる部分が精査できるかといったら、やはりその部分は不可能でございましたので、その部分については先ほど申し上げたとおり、3案でいくということで進めたものでございます。

早くって言ったらいいいのか、もうちょっと時間があればそういった部分も協議できたのかもしれないですし、その辺は時間がなかったということで、この3案で協議会の方に報告させていただいたということでございます。

○委員（赤井睦美君） ありがとうございます。

○委員長（牧野 仁君） あと、他にございませんか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 前から時間がないとかっていう話ばっかしか聞こえてこなくて、どうもそこには私としては時間がない、を言い訳にしてるなとしか思えないんだよね。とりあえず一番最後に付けてくれた資料、入札提出説明っていうやつで、不調だったと。

2回目公告時の予算額まで減額検討したと。その中で、要は現設計とのやり取りの中で減額したやつで、このくらいでできるであろうっていうものをね、それは確定した図面やらなんやらもなく、このくらいはできるだろうっていうやつで出してるよね。

そして、例えばAパターンは多分これでは通らないだろうと。そうするとB1パターン、減額プラス予算増額っていうタイプ。これは現設計から落とせるところ落として庇を止めてっていう単純な削減案をもとにこうやって出したんだと思うんですけど、これだと完成見込みが1年遅れるだけで済むんですよ。

でも、リセットし再設計を行うとなると、3年遅れるって書いてあるんですよ。例えばね、B1でいろいろ検討して、例えばこれからが1年、1年半遅れるでもB2のパターンよりは早く済むんですよ。

例えば19日かな。要は議会でもさ、1億9千万無駄に、何とかならないかっていう話も出してたはずなのに、それを無視してるよね。無視してもうB2パターンで行くともう決めてかかってくるわけだ。そこはやっぱり納得しきれないでしょ。こういう説明が最初っからあればさ、何となくって言うのはわかるけど、なかったんだから。そこはちょっとね、納得しきれないもんな、どうやっても。

だから私的に、要は建築業者でも何でもないので何とも言えないけど、それこそ入札して、不落になりました。そのために検証して、2回目やりました。それでも検証したかどうかって、どうもいまいちこの検証でいいかどうかわからんけども、3回目4回目やったっていいんじゃないの。設計見直してこうしますよと。それで入札すればいいわけでしょ。それを何回繰り返しても俺はいいと思ってたから、これで打ち切りますっていう判断がよくは俺にはわからん。

だから、そこは明日、明後日っていうのかどうか知らんけども、今時点で私はそこを納得できるだけの、これを見てさらに納得できなくなるっていうとこなんだよね。せつかくここまで設計屋さんが設計変更を完成できないけどこのぐらいつて出したわけだから。その設計変更が例えば完成するまで待たたって、俺はよかったんじゃないかと思うんだよね。そこら辺の判断をどう決めたのか伺いたい。誰が決めたのか。

○副町長（竹内友身君） 委員長、副町長。

○委員長（牧野 仁君） 副町長。

○副町長（竹内友身君） 横田委員おっしゃる、その現設計を活かして設計を見直すっていうお話ですけども、やっぱり建築費、これだけ差があると面積をやっぱり抑えないと建たないっていうのがきっと事実だと思います。

ですので、私達の公民館機能を外して今回庁舎をもう一回再設計したいということでご提案申し上げておりますので、今のままのこの現設計を修正設計したとしても、一部加えてやってもなかなか金額は落ちないというふうには判断して、今公民館機能を外したわけがありますので、その辺はちょっとご理解いただけないかなと思いました。

○委員（横田喜世志君） 答えになってないような気がするけどな。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 委員長、室長。

○委員長（牧野 仁君） 室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 7億円の提案を受けて、議会のほうに報告をなぜしなかったのかという部分ですけれども、先ほど建築係長からもお話ありましたように例えばEの資料のA3の1枚物になりますけれども、1番。これがタイルからコンクリートになると、この部分が例えば1階の床を当初であればタイルを貼って、見えるところですね。それを土間っていうかコンクリートにする。

要は、倉庫とかそういう部分にランクを下げるというような内容です。それが果たして、庁舎の中でいいのかという議論も当然必要だと思うんです。あと建築費の中で備品が入ってるんですけども、備品というかカーテンとかそういった部分を抜いて、備品のほうにするということで減額した部分もあるんですけど、それはまだ同じく備品のほうでかかるわけですから、総体ではその部分が下がらないとか、そういうランクを下げたりすることの精査に時間がかかるというふうに考えて、尚且つ、今回底を取る提案というか、今回7億円の中に底を取る部分もありますけれども、底を取ることによって省エネの基準が適合しなくなる可能性があるということで、そうすると今度、補助金の関係にも影響してくるという部分もございますので、そういった部分を精査するには、やはり設計屋さんからは8ヶ月ぐらいそれを整理するのにかかるというふうに聞いてました。

ですので、直前にいただいた7億円の提案でしたけれども、翌週月曜日、全協、その次、町民説明会等ありましたので、その中で提案をすること自体混乱を招くという部分で、いくら下がるか不透明な部分もありましたので報告はしなかったということで、ご理解をいただきたいと思います。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 黙ってられねえや。19日のことを思い出してください。

二本柳さん、今の設計事務所に設計変更が頼めないんだろかっていう、実に素朴な疑問を何人かの議員が提示したときに、いや屋根がデザイン建物ですからね。頼めるでしょうかねって言って、とぼけたのを覚えてません、副町長。金額のことじゃないんですよ。

こういった相談が事前に隈研吾さんがしてるってことが知ってたら、僕たちはまた違う議論してるんですよ。3案しか示してないでしょ。

そして、僕たちの質疑の中で、隈研吾二本柳JVがね、設計変更の可能性があるっていうことを発言で潰してるんですよ。全然、僕たちが今受けるイメージ、混乱という言葉、総務課長が使いましたけれども、今のほうが僕たち混乱してますよ。役場本当のこと言わないんだって。設計事務所が設計変更するっていう可能性を問いただしたのに、現にしていること、全協の前に設計屋さんがこういった説明をしていることを話すチャンスだったんじゃないですか。そこに誠意のかけらもないよね。ゼロベースにしたかった気持ちは重々汲んだとしても、そのときに今の説明できたじゃないですか。

提案はされたんだけど、あまりにもチープな提案だったっていう説明をあの時にしたならね。そうか、じゃあ僕たちはどうしようかなって考えるけども。

どうやったら調べられるようだろうかっていう知恵を絞って二本柳さんっていうところに、何とか来てくださいっていうことで、そしたら知り得たことなんですよ。どうしてこんな聞いてない話が出てきたんだろう。それで今説明しに来てんですよ。

もっと1月19日のことを思い出しながら説明してくださいよ。とぼけたんですからね。この事実を重く受け止めないんだ。議員に嘘を言ったんだ。このことの申し開きが今日あると思ったの。全然そこにまでほっかぶりするんだもんな。

明日なるべくボルテージ上げないように喋るために今ボルテージを上げてるけどさ。今までのあなたたち、特に総務課長であった竹内さん、財政課長であった川崎さんへの信頼が僕はドーンと地の底に落ちましたよ。こういうやり方をするんだ。まさかとは思ったんだけど。

今日、一切19日のことを謝る姿勢は全くない。そういうふうには思わない議員のほうが僕はおかしいと思うんですけど。横田さんは、かろうじて僕らの仲間だなと今思ったんですけど。

○副町長（竹内友身君） いいですか。

○委員長（牧野 仁君） 副町長。

○副町長（竹内友身君） 1月19日に、確かに私のほうから設計事務所のほうに設計に関するご意見をお聞きすることは可能だと思いますと言ったんですけども、やはりその内容を見ると、議会に事前、16日に提案あったことは事前にお話はしてませんが、それは私達の役場内部の判断でこれは町民説明会にも、さっき言ってました混乱を招くというようなこともありましたから、そこは説明せずにおりました。

ただ、その後やはり結論を導くのに、大きく建物自体を変更せざるを得ないなということで考えた場合に、果たしてもう契約が終わっている建設設計の部分について、もう1回やり直すという判断したときに、随意契約っていう方法もあるんでしょうけども、やはり公平性透明性を確保するという行政側からいけばですね、入札を1回やり直すというような判断をさせていただいたわけでございます。

それで、私が申し上げたことを実行していないということであればお詫びいたしますけども、その間のいわゆる町側としての考えをまとめる中でコンタクトを取ることはできなかったということは申し訳なかったなと思っております。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 契約切る前でしょ。1月19日は。2月5日でしょ、契約切ったのは。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 委員長、室長。

○委員長（牧野 仁君） 室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 実施設計業務委託は昨年3月で終了いたしましたので、既に成果品として納入を受けておりますので、去年の3月で契約は終了しております。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） そしたら、どういう立場で1月16日に設計変更の可能性ありますよってという提案を二本柳さんはしたんだろう。1業者として相談されたってことなの。

またなんでそんな契約を切った人に、そんな設計提案を受け止めるのかな。

○新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） 委員長、次長。

○委員長（牧野 仁君） 次長。

○新庁舎建設推進室次長（吉田正樹君） 実施設計業務自体は去年の3月で終了して、そこから補助金の申請の関係もありまして、約半年ぐらい放っておかなきゃいけないものになるんですけども、その間に単価の入れ替えだったりとか、実際の入札までにやらなきゃいけない部分っていうのがあるんですけども、そこは設計者として協力させてほしいということで、通常の手続きというか、手順の、あくまでも協力関係の中で、補助金の申請書類の作成のお手伝いであったりとかそういうところを受けていった流れが2月までずっと続いていたということになります。なので、契約関係とかは一切ありません。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 二本柳さんの証言の中には、1月16日に4案を示すと。大屋根を外した減額案みたいなことも入れて、4案まで示すっていうことがこのことを大急ぎで資料作ったんだってという証言だったんですよ。

だから、先ほど川崎総務課長が言ったように、あまりにもチープな提案だったんでっていうところを大急ぎで作ったもんだし、そして議会が総意として、現設計業者に改めてそういった予算に見合うような変更とか、もしくはゼロベースという言葉もありましたから、屋根を外したシンプルになっていうことを現設計業者に頼むようにできないのかって言ったのは、そのほうがタイム的に時間は短くなって、場合によっては皆さん契約のうちだと思ってたからね、安くあがると。

だから、認識がずれてたかもしれないけど、全く議会からもそういう思いがあるんだったら、この話をしてくれれば僕たちだって。まあ、それが邪魔だったのかもしれないけどさ、あまりにもゼロベースっていう結論に持っていくことを意図的に、町民説明会もそうだし、私達をもそちらに導くために情報操作したっていうふうにはしか見えないですよ。

二本柳さんは慌てて作ってんだから、チープなもんだってことをね、僕らの証言では慌てて作ったって言ってましたよ、3日かけてお急ぎでって。

だからそれを信じるとしたら、僕たちは1月19日の時点では彼らにもう一度設計のチャンス、それにもし町が歩み寄ればさ、もう少し時間をかけて、この設計減額案をさらに減額だとか、もっと中身を現実味のあるものに寄せていこうだとか、時間的な余裕は、今よりもずっとあったはずでしょ。建設的な提案にしていくためのチャンスをあなたたちのほうでなくしていったっていうのがね、なぜそんなことになるんだろうと、そう思いますよ。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） 委員長、新庁舎建設推進室主幹。

○委員長（牧野 仁君） 主幹。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） まず、はじめに設計変更できないのかっていう部分の答弁のやり取りの中で、設計自体は3月に業務完了してるということで、その検定の際

に一応入札が行われる公告が行われる時までは、面倒見ていただくということで、例えば変えるものがあれば変えていただくというようなお願いをして一応終わっていると。

そして、向こうのほうもそれを承諾してやっていただいているという状況の中で、そして新たに今の現設計の内容を変えるということになれば、新たな業務として発注するということになります。契約がもう3月で切れているということで。そういう場合に、一般の入札の仕方と随意契約という契約の仕方が2本ございます。それについて、うちの八雲町としての判断に至った経緯というのをちょっとご説明させていただきたいと思います。

○委員（三澤公雄君） いや、いいわ。

あのさ、問題をわかってないと思うんだけど。なぜ1月19日のときにこの話ができなかったのかってことさ。なぜ隠し通そうとしたの。喋ってよかったじゃん。そしたらここで共有して、なるほどなど。契約のことだから頼めない。だけど、そういったアクションしてたんだっていう理解で、1月19日以降来てたら、この調査っていうことも起きなかつたらうし。

なぜこんな、これは僕たちが調べる行為を続けてきたからたどり着いたことだよ。もしそこに行かなかったらどうなんの。隠し通して、しめしめってか。今、ばれちゃったから理由言ってんだぞ。そうでしょ。自ら喋るチャンスはあったんだから、1月19日に。こんな提案だったんですよっていう。タイル張りっていうのをタイル貼らないでほうきでごまかすんだってさって。こんな提案ですからねって。皆さんこういうことを知ってても、もう一回再設計頼みますか、なんて言われたら、そうだね、なんて寄り添えたじゃん。寄り添わないかもしれないけど。言うチャンスあったのに隠したんだ。なんで。そこに対しての言及がないんだよ。今この二本柳さんの提案がチープだと。

そして、なおかつ設計の契約終わった後だという説明は、今わかろうとしてもなぜあの時それをしてくれなかったんだらうかっていう。僕たちが調べようとした中でたどり着いたことなんだから。君達のほうから実はねって話しに来たんじゃないんだよ。この視点の違い、とっても大きいと思うんだけどね。不信感持たないほうがおかしいでしょ。何でそう受け止めないんだらう、副町長。

○副町長（竹内友身君） いいですか。

○委員長（牧野 仁君） 副町長。

○副町長（竹内友身君） ちょっと申し訳ないんですが、私達が全協を開いていただいたのが、町民説明会を前にこういった内容で町民説明したいという全員協議会だったもんですから、そこに今の第4として入れたら、町民にもそれを示さなきゃいけないというふうになっちゃいますので、そこは今三澤委員おっしゃるように議会には、いや、こういう案が来たけども、実際3案でいかせていただきますっていうお話を確かにすればよかったのかもしれないけども、そこはどうしても町民説明会っていうことがすぐ迫ってましたので、そこは3案で行かせてもらいたいという議会に対しての説明になってしまったということでございます。

あと、二本柳さんもその3日間寝ないでやったというお話ですけども、正直に言いますと、私達のほうから作ってくれというお願いしたものではなく、向こう側から16日にWeb会議

で提案したいんだけど、という提案だったと私は記憶しておりますので、こちらから要求して作っていただいた書類ではないということは申し上げたいと思います。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） 委員長、室長。

○委員長（牧野 仁君） 室長。

○新庁舎建設推進室室長（川崎芳則君） あと、隠してたとかっていう部分ではなくて、先ほど業者さんから7億円の提案を受けました。

結局、底を取ることによって、ZEBの補助金の基準に適合しなくなる3億6千万円の部分もありますし、それが確定したわけではないですけども、そういう部分でも整理していきやならない。

あと、先ほど言った底を取ったところの化粧をどうするのかとか、屋上の部分をどうするのかっていうプラス要素、あと設計料がどのぐらいなるのか。その辺が整理されておられますので、この7億円が果たして5億になるのか3億になるのか、その辺が不透明ですので、そういう不透明な部分を町として、行政として提供できなかったということで、そこはご理解いただきたいと思います。流動的な部分でしたので、そこはご理解いただきたいと思いたすけれども。

○委員（三澤公雄君） 全然説明になってないけど、これ以降は明日へ。

○委員長（牧野 仁君） そうですね。あと他に。

○委員（三澤公雄君） あとっていうよりも、俺は明日があるから明日でいいけどさ。みんなどう思う。

○委員（横田喜世志君） 明日頼むね、違うか。

○委員（三澤公雄君） 隠してるんだっていうことで事実をさ、何とも思わないんだ。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 先ほど契約のやり方っていうのを途中で遮られたと思うんですけど、そのやり方を図表か何かにしてもらえないかな。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） 委員長、推進室主幹。

○委員長（牧野 仁君） 推進室主幹。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） 図表ではなく、1月19日の全協の中で2回目の入札の不調と町民説明会の実施のこと、そして、町の考え方、ゼロベースで提案していくということについて皆様方に報告したと。そして、意見を聞いたというふうに私は認識してるんですけども、その中でゼロベースと決めた内容、そこに至った経緯について、私のほうで先ほど説明しようかなというふうに思ったんで、図表で示せるものではなかったんですけども。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） そういうことじゃなくて、随意契約と何とか契約あるって言ってたでしょ。その違いを出してちょうだい。

この契約の進行じゃなくて、契約の仕方があるって言ったしょ。

だからさ、随意契約と何とか契約があるっていうその違いを書いたもので出してくれて、今回のこの仕事じゃなく、全部一般的に町の発注の仕方。契約の仕方。

例えばね、さっき三澤くんも言ったけど、一般的にね、今まで町営住宅建築、なんたら建築ってやってるよね。その中で基本設計、実施設計やって入札終わって。だから、監理業務っていうんだっけ。それにも設計入ってるよね。

○副町長（竹内友身君） その監理業務は工事が始まってからですよ。

○委員（横田喜世志君） そうそう。それも設計が入ってるでしょ。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） 同じ設計屋さんが工事の管理をするって。

○委員（横田喜世志君） だから、うちらはずっと続いているもんだと思うんですよ。どこで切れて、どこで新しく契約して。それで言ったらね。

○委員（三澤公雄君） 1月19日のみんなの認識がそうだったっていうね。1月19日の時点では。

○委員（横田喜世志君） 要は続いているもんだって。

でも、そちらは3月で終わってると言ったわけだ。うちにはそういう認識ないので、契約というものはどういうものなのかを書いた物出しといて。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） 委員長、推進室主幹。

○委員長（牧野 仁君） 推進室主幹。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） すいません。とりあえず、もし必要であればそういうものもこれから作りたいと思いますが、まずは私の説明の部分もちょっと聞いていただいて、それを図化して必要であれば、ということなんです。基本的に随意契約ができないということを説明したいわけではないんですが、町としてその随意契約を選択しなかった理由というのをまず説明させていただきたいと思います。

まず、随契の説明からさせていただきたいんですが、地方自治法の第234条第2項の規定によって、時価に比して著しく有利な価格で契約を締結することができる見込みのあるとき、例外規定として随意契約を行うことができます。

仮に、これまで設計業務を担った設計事業者と協議して安価に業務を施工できるとしても著しく有利な価格の定義において他事業者の見積りの比較、品質の保証、見積り内容の客観的な証拠などの証明が必要となります。

現在の町の方針としては、現設計成果の一部を変更するものではなく、新庁舎の機能、具体的には公民館の機能を外す変更を含めた設計業務となり、実際の設計業務内容はほぼゼロベースからの設計業務と変わらない作業が必要となります。

仮にこれまで設計業務を担った設計業者さんが現設計成果の一部を利用できるとして、安価な見積りを作成できるとした場合であっても、実際にはそれらが本当に利用可能か検証を行うため、ゼロベースからの設計業務と同等の労務費いわゆる作業員の人工数により、検証を行わなければならないものと考えられます。

それを考えると、著しく有利だとする価格に対する根拠が不透明になると思われます。実際の作業に必要な労務費よりも著しく低い労務費で見積りが作成されるということになるということでございます。

また、設計業務の見積もり内容については、標準的な国土交通省の設計業務、委託料、算出基準をもとに、省くことができる作業員の人工数を加除するものと想定されますが、各工程における人工数の加除に対して明確な基準がないため、町としては、提出された見積りが適正な内容であるかどうか判断が実際難しい部分もございます。

最後に、公共工事としての過度な低価格による受注、いわゆるダンピングは健全性を損なうなどのリスクから制限されているところでございます。

以上のことから町としては、随意契約における品質や適正価格の担保が証明しにくいと考え、現設計者との協議継続及び随意契約の追求は行わなく行わず、国土交通省の設計業務委託料最終基準に則り予定建築物の床面積、用途に応じて算出される標準的な設計業務費を新規に計上するという判断に至ったものでございます。

○委員長（牧野 仁君） 今、説明ありました通り、よろしいでしょうか。

○委員（赤井睦美君） ごめん。もう1個教えてください。

設計は3月で契約が終わった。そして、万が一入札が成功してたら監理は監理でまた契約を結ぶってことが決まりなんですね。

○新庁舎建設推進室主幹（池田裕史君） そのとおりです。

○委員（赤井睦美君） わかりました。ありがとうございます。

○委員長（牧野 仁君） あと、よろしいですか。

それでは、他になければ、資料について説明を終了といたします。町の理事者の皆さん、本当にありがとうございました。

【新庁舎建設推進室職員退室】

◎協議事項

○委員長（牧野 仁君） それでは協議事項に入りますけども、皆さんから何かありますか。

○委員（三澤公雄君） 何かありますかじゃなくて委員長はどう思うんですか。総務常任委員会でこういうアクションしたけども、そうしなかったらたどり着かなかった事実を今日聞いたわけですよ。委員長はどのように思うんでしょうか。

○委員長（牧野 仁君） いや、今理事者から説明を受けまして、今回の19日に向けての説明の中で4番目の説明が抜けてたというのは確かに問題はないわけではないということ、これについては、資料見てこういうパターンがいくつか出てきたんだと、協議された結果、町民説明会がされたっていうのがわかりました。

○委員（三澤公雄君） いや、はっきり最後のほうだと19日の全協も21日と23日の町民説明会の日程をもう決めているので、僕らが例えば違う答えを出したとしたら、どうしたんだろうね。ゼロベースに落とす、町民に理解をしてもらおう説明をしたかったっていうことでしょ、あの説明だとね。

じゃあ、全協っていうか僕たち議会にその前に説明したというのは確かに2のゼロベースでいきたいっていう意思表示はしましたよ。しましたが、でもそれは考えを示しただけじゃなくって何が何でもそこにしたかったと。私達がどんな意見を言うかね。

それって関口さんが言うように議会軽視っていう言葉が全く当てはまることだしさ。ちょっと。内容は聞いたらね、納得できない内容じゃないのさ。今、盛んに言葉重ねてたけど、チープな提案だったっていうような内容でしょ。

だから、彼らはそう判断したなら、そういう判断したんですってことをなぜ僕たちと共有しようとしなかったんだろうか。

○委員長（牧野 仁君） そこだけちょっと抜けてたんだね、4番目はね。

○委員（三澤公雄君） なぜ抜かすのかね。

ゼロベースに行きたい気持ちがよっぽど強かったっていうふうに理解はしたいけどさ、これからもそういうふうに結論ありきの情報しか僕たちには提示されないのかもしれないって、全部疑ってかかんなきゃいけないぐらいな出来事だと思うんだよね。調査っていうのは、もう今日これで大体区切りをつくでしょ。

ましてや、資料は見せたくないところは黒塗りしてんだから、今日会議の冒頭で秘密会っていう扱いにしましたが、それはもう解除していただいて、こういった町の姿勢が今回思わぬところでわかったんで、そういう意味ではこれからの報告を受けることをどういう姿勢で我々は受けなきゃいけないのかっていうことは、ちょっと認識が変わっちゃう出来事じゃなかったかなと僕は思うんですけども。

まずは、秘密会は、20日のということは決めていただけないかなと思います。

○委員長（牧野 仁君） 今、三澤委員から秘密会は今日で終わりということで。

○委員（三澤公雄君） 地方自治法234条って言った。

○委員（横田喜世志君） 234条。

○委員長（牧野 仁君） それでよろしいでしょうか。

あと、前日の全員協議会で最終確認されました、これまでの協議を踏まえて3月定例会で基本実施設計委託上程される予定でございますけれども、そこは、先の全員協議会で間違いなく意思統一されたことを忘れずに進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○委員外議員（関口正博君） すいません、すいません。

○委員長（牧野 仁君） 関口委員。

○委員外議員（関口正博君） その上程って俺聞いてないんですけど、それはどこで話し合われたの。それ確実な情報なんですか。新たな実施設計案だとかが上程されるって今委員長おっしゃった。

○委員（三澤公雄君） 全協でじゃなくて議運で話し合っただけだから、まだ全議員には知られてないんで。資料もいってないしょ。

○議会事務局長（野口義人君） 資料はLINEでまわして。

○委員（三澤公雄君） 当日机上配布って感じじゃないの。

○議会事務局長（野口義人君） 議運で決定事項は各議員には配られてない。

○委員長（牧野 仁君） そうなの。

○委員（三澤公雄君） 最終日の本会議で。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 事務局から。

○委員長（牧野 仁君） 事務局。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 議事進行予定表については確かに皆さんにお渡しは、配ってます。

○議会事務局長（野口義人君） あくまでも今委員長は上程予定っていう予定っていうことはきちんとってますんで。

○委員外議員（関口正博君） 上程予定。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 事務局から。

○委員長（牧野 仁君） 事務局。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） まだ最終日の予定になってるはずだと思いますので、議案自体は来てません。

○委員長（牧野 仁君） そうですよ。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） はい。

○議会事務局長（野口義人君） 上程予定です。

○委員長（牧野 仁君） 予定で聞いてましたんで、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） それでは、今日の会議はこれで閉会いたします。お疲れ様でした。

[閉会 16時09分]